

創立 40 周年記念式典挨拶

本日ここに、「神奈川県立逗葉高等学校創立 40 周年記念式典」を挙げていただけますことは、私たち職員・生徒一同にとりまして大きな喜びです。また、大変お忙しい中にもかかわらず、近隣地区の中学校・高校の校長先生方や本校の応援団である「さざくら会」の皆様にご臨席いただきましたことに、心より御礼申し上げます。

昭和 53 年、逗子市桜山の地に、この逗葉高校が産声を上げてより今日までの卒業生は、12,000 名を超え、現在多方面にわたって活躍をしています。このように、多くの優れた人材を輩出することができましたのは、生徒自身の努力と歴代校長をはじめとする教職員のたゆまぬ教育活動に加え、保護者の皆さまや地域の方々の温かいご支援・ご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

本校では、「おもいをかたちに」を合言葉に、学習活動と行事や部活動などの特別活動を通して「自ら考え、判断できる生徒を育む、豊かな人間関係の中で学べる学校」という校風を築いて参りました。校風とは、学校の文化です。その文化の担い手は生徒です。

今ここにいる生徒の皆さんは、40 年の歴史を持つ学校の現在進行形の主人公です。

ところで、去る 11 月 24 日に、今から 30 年前の創立 10 周年記念で埋蔵されたタイムカプセルの掘り出しがあったことを、知っている皆さんもいると思います。当初は、埋めてから 15 年後に掘り出す予定だったのですが、気が付けば 30 年間経ってしまい、当時の高校生たちは、45 歳以上の大先輩になっていました。

掘り出し実行委員メンバーの中に、特に熱心な女性がいらっしゃいました。その方は私にこうおっしゃいました。「私は、実は高校時代にあまり特別な思い出が無かったので、それほど楽しいものだという印象は持っていなかった。でも、タイムカプセルのことは気になっていて、今回掘り出しの企画を考えたところ、30 年も経っているのに、たくさんの同級生や先輩、後輩が協力してくれて、300 名以上が来てくれた。高校の一番の思い出が卒業から 30 年たってできるなんて、本当にやってよかった。」と。

私は、その方の企画力や頑張りがこの結果を生んだことに、心から敬意を表するとともにこう言いました。「あなたが入学し卒業した高校は、30 年も経ってからの呼びかけに 300 名以上が集まってくるような学校だったという事を、どうぞ忘れないでくださいね。」

皆さんもご存知のように、平成 35 年 3 月の末で、逗葉高校の歴史はいったん終わりを上げ、逗子高校とともに新しい学校へと生まれ変わります。逗葉高校という名前はなくなるかもしれませんが、皆さんや、すでに卒業した多くの元生徒たち、そしてこれから入学してくる未来の生徒たちにとって逗葉高校はいつまでも母校です。そのことを心にとめて、「やる気！元気！逗葉高校」をますます発展させていきましょう。

繰り返しますが、主人公は生徒の皆さんです。心から期待しています。

最後になりましたが、本日ご臨席くださいました来賓の皆様、逗葉高校は、これからも逗葉高校らしさを大切に、より素晴らしいものへと発展させて未来へのつなぐため、職員一同、心を込めて教育活動に邁進してまいります。

今後とも、本校の教育活動に、皆さまからの変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

これを持ちまして、創立 40 周年記念式典のご挨拶といたします。

平成 30 年 12 月 21 日 神奈川県立逗葉高等学校 校長 大貫 晶子